

研修Ⅰ 高松 関心を高め、自信をもたせる授業づくり

— 思考ツールを利用した対話的な学習 —

「物語が強く語りかけてきたことをまとめよう—『海のいのち』—」（東京書籍6年）

1 提案の概要

(1) 主張点

- ① 学習の目的と単元の見通しを明確にした単元構想
子どもの実態把握や単元で付けたい力を見極め、子どもが関心をもち続け、主体的に学習できる単元構想を考える。
- ② 1単位時間の授業における指導過程の工夫
言語活動に沿った学習問題の設定、課題解決のための価値のある学び合いを効果的に取り入れた学習の進め方を考える。

(2) 具体的な実践例

○ 付けたい力に迫るための課程

- ①登場人物の相互関係（太一とおとうや与吉じいさとの関係）に注目する。
- ②登場人物の気持ちの変化（太一がクエを殺さなかったこと）について考える。
- ③メッセージを強く意識させる表現（「千びきに一びき」）に注目して読む。
スモールステップで学習を進めることにより、子どもたちの中で「できた。」「わかった。」が増え、物語が強く語りかけてきたこと（作者のメッセージ）を受け取ることができた。

○ 国語に対する関心意欲を高めるための工夫

「なぜ、太一はクエを殺さなかったのか？」という発問では、答えが漠然としたものになる（広すぎる、難解すぎる）ため、答えにたどり着けない児童が多く、課題に対する関心意欲が低下してしまう。そこで、発問を『千びきに一びき』の考え方は、おとうにも共通するか（共通しないか）？という二択にすることで、自分の立場を明確にできるようにした。自分の立場を明らかにすることが、児童のその後の思考を促すことへとつながり、「自分もできている。」という安心感をもって学習に参加し、課題に対する関心意欲を高めることができた。

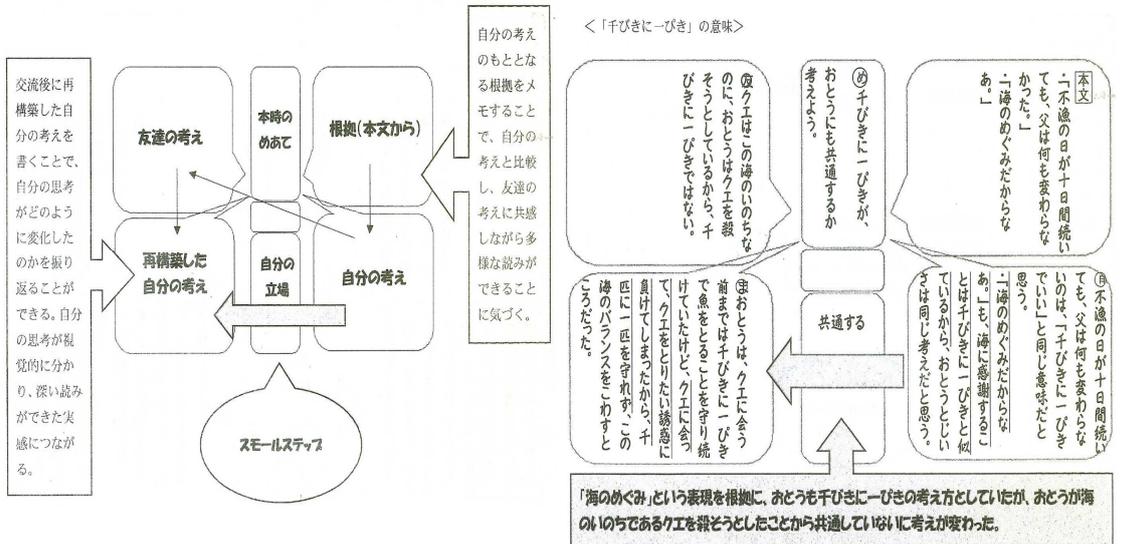
○ 対話による学び

AかBかの立場を明確にし、対話し、複数での課題解決により、「同じ考えの人はいるだろうか。」「他の人はどっちだろうか。」「自分の他にも同じ立場の人の意見を聞いてみたい。」「違う立場の人の意見も聞いてみたい。」「なんとなくこちらだと思うが、その説明がしにくいから人に聞きたい。」など、一人一人が主体的に学習に参加できる。また、対話により友達との感じ方の違いに気づき、読みが広がりまた深まる。その面白さを感じることで、国語に対する関心意欲の向上につながった。

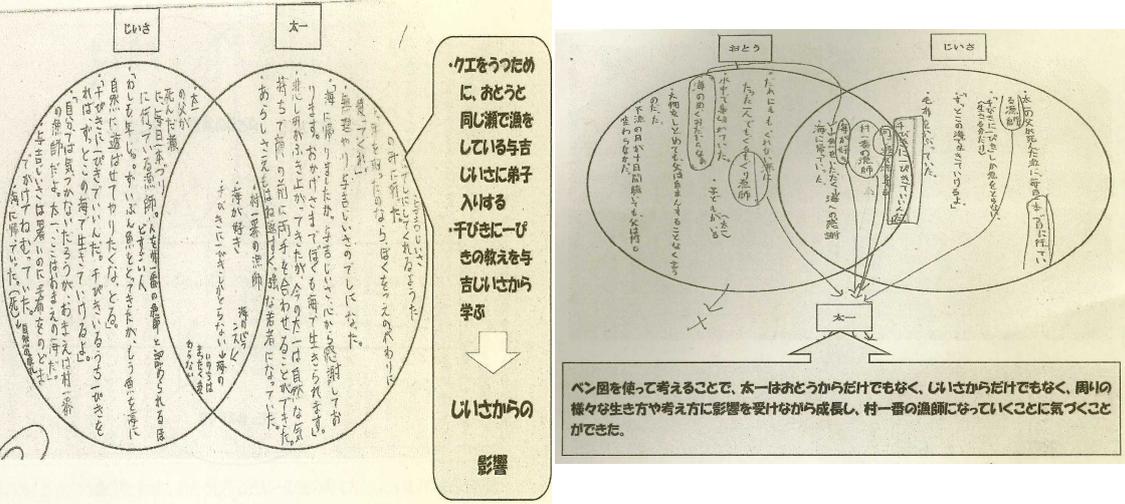
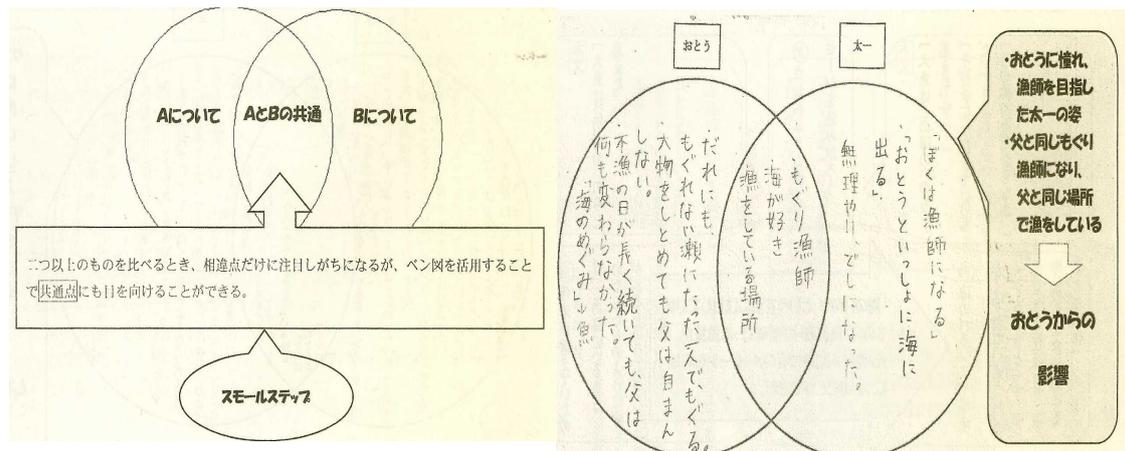
自分の考えや友達考えが一目でどちらか明確になるよう、二択の立場に合わせ、赤白帽を被り、自分の思いに合わせて様々な考えを交流できるようにした。対話の中で自分の立場が変わった場合は、その場で帽子の色を変えていった。

○ 自信をもつための工夫（思考ツールの活用）

「バタフライマップ」チョウの体（頭、胸、腹、羽4枚）をモデルとした思考ツール



「ベン図」二つのものを比較する際に活用できる思考ツール



2 成果

- 対話の場面から、国語で一つの課題について考えることの楽しさ、みんなで考えることの意義を見出すことができ、主体的な学習への参加につながった。
- 物語が強く語りかけてきたことの読み取り
 - ①登場人物の相互関係（太一とおとうや与吉じいさとの関係）
 - ②登場人物の気持ちの変化（太一がクエを殺さなかったことについて）
 - ③メッセージを強く意識させる表現（「千びきに一びき」）
 - ①②③の視点で考えていくことを通して、ほとんどの児童は物語が強く語りかけてきたことを読み取ることができた。
- 思考ツールの活用により、自力で考えを形成できるようになった。また、読み取りが苦手な児童も積極的になり、授業の終末には自分の考えを書くことができた。バタフライマップを用いることで、自分の立場を自然と意識させ、全員参加で、成功体験を積み重ねることができ、自信をつけることにつながった。さらに、見通しをもつこともできた。それぞれの段階での必要感が自然とわかることは、関心を高めることにもつながった。

3 課題

- 『千びきに一びき』の考え方は、おとうにも共通するか」という問いについて、教師の予想は「共通するかしらないか」というどちらか二択だったのに対して、児童の反応は二択に加えて「どちらにもあてはまる」という考えもあった。また、「迷っている。」ということも、その児童の答えである。
 - 「AかBか？」を考えることで、どちらかだけでなく、両方の事柄に対する根拠を考えることができ、様々な解釈がある、深い読みにつながった。
- 「なぜ、太一はクエを殺さなかったのか？」については、児童の初読の疑問、考えからすると、避けられない問いなのではないか。「A『クエをおとうと考えた（重ねた）』、B『海のめぐみを殺してはいけない』と思うことによって殺さずにすんだ」など、表現に沿って読むことはできないか。